

CA 2E

導入ガイド

r8.7.00



This documentation, which includes embedded help systems and electronically distributed materials, (hereinafter referred to as the "Documentation") is for your informational purposes only and is subject to change or withdrawal by CA at any time.

This Documentation, which includes embedded help systems and electronically distributed materials, (hereinafter referred to as the "Documentation") is for your informational purposes only and is subject to change or withdrawal by CA at any time. This Documentation is proprietary information of CA and may not be copied, transferred, reproduced, disclosed, modified or duplicated, in whole or in part, without the prior written consent of CA.

If you are a licensed user of the software product(s) addressed in the Documentation, you may print or otherwise make available a reasonable number of copies of the Documentation for internal use by you and your employees in connection with that software, provided that all CA copyright notices and legends are affixed to each reproduced copy.

The right to print or otherwise make available copies of the Documentation is limited to the period during which the applicable license for such software remains in full force and effect. Should the license terminate for any reason, it is your responsibility to certify in writing to CA that all copies and partial copies of the Documentation have been returned to CA or destroyed.

TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW, CA PROVIDES THIS DOCUMENTATION "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT WILL CA BE LIABLE TO YOU OR ANY THIRD PARTY FOR ANY LOSS OR DAMAGE, DIRECT OR INDIRECT, FROM THE USE OF THIS DOCUMENTATION, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS, LOST INVESTMENT, BUSINESS INTERRUPTION, GOODWILL, OR LOST DATA, EVEN IF CA IS EXPRESSLY ADVISED IN ADVANCE OF THE POSSIBILITY OF SUCH LOSS OR DAMAGE.

The use of any software product referenced in the Documentation is governed by the applicable license agreement and such license agreement is not modified in any way by the terms of this notice.

The manufacturer of this Documentation is CA.

Provided with "Restricted Rights." Use, duplication or disclosure by the United States Government is subject to the restrictions set forth in FAR Sections 12.212, 52.227-14, and 52.227-19(c)(1) - (2) and DFARS Section 252.227-7014(b)(3), as applicable, or their successors.

Copyright c 2014 CA. All rights reserved. All trademarks, trade names, service marks, and logos referenced herein belong to their respective companies.

CA への連絡先

テクニカル サポートへのお問い合わせ

当社製品を便利にお使いいただくために、CA では個人、SOHO、および企業向け各製品で必要な情報にアクセスするためのサイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) を提供しています。

ご意見・ご感想

CA 製品ドキュメントについてのご意見またはご質問がございましたら、techpubs@ca.com にご連絡ください。

製品ドキュメントについて簡単なアンケート調査にご協力いただける場合、CA サポート Web サイトでもご利用いただける、次の URL にアクセスし、ご回答ください。
<http://ca.com/docs>

目次

第 1 章: 導入概要	9
導入のタイプ	9
前提条件	10
国別言語サポート	10
製品の認可	10
導入に必要な権限	11
第 2 章: CA 2E の導入	13
始める前に	13
ソフトウェアの導入	14
適切な権限でサイン オン	14
ファイルを IBM i サーバーにコピー	14
製品ライブラリーの復元	15
Web サービス サポート	16
ソフトウェアの構成	17
製品の認可	17
製品オプションの設定	21
作業環境の管理についての詳細情報	21
CA 2E TOOLKIT 導入メニュー	21
CA 2E 導入メニュー	24
第 3 章: アップグレード導入	27
始める前に	27
ソフトウェアのアップグレード	28
適切な権限でサイン オン	28
データおよびユーザー オブジェクトの移動	28
ファイルを IBM i サーバーにコピー	29
製品ライブラリーの復元	30
ソフトウェアの構成	31
製品の認可	32
既存 CA 2E 設計モデルのアップグレード	36
適切な権限でサイン オン	36
ライブラリー リストの変更	36
アップグレード ユーティリティの実行	37

第 4 章: 並行導入	39
始める前に	39
ソフトウェアの並行追加	40
適切な権限でサイン オン	40
ファイル IBM i サーバーにコピー	40
製品ライブラリーの復元	41
ソフトウェアの構成	42
製品の認可	44
既存 CA 2E 設計モデルのアップグレード	48
適切な権限でサイン オン	49
ライブラリー リストの変更	49
アップグレード ユーティリティの実行	50
付録 A: TOOLKIT データ オブジェクト	53
TOOLKIT データ オブジェクト	53
ユーザー作成設計オブジェクト	54
付録 B: 権限要件	57
権限テーブル	57
付録 C: トラブルシューティング	59
発生する可能性のある問題	59
付録 D: IBM i サーバーの DVD ドライブからの導入	61
CPYFRMSTMF コマンドの使用	61
付録 E: バージョン 7.0 より前のリリースからのアップグレード	63
CA 2E スル モデル内の新規オブジェクト	63
新規の内部システム定義フィールド	63
新規のメッセージ	64
プログラム状況データ構造ファイルへの変更点	65
付録 F: 導入ワークシート	67
製品ライブラリー	67
マージ可能ライブラリー	68
国別言語サポート ライブラリー	68
TOOLKIT 開発用国別言語	68
2E 開発用国別言語	69

TOOLKIT エンド ユーザー環境用国別言語	70
2E エンド ユーザー環境用国別言語	71

第 1 章: 導入概要

初めの 4 章では、CA 2E と CA 2E TOOLKIT を IBM i にインストールする方法を説明します。これらの製品は、それぞれ旧名が AllFusion 2E、AllFusion Xtras TOOLKIT の製品です。本書では、これら 2 つの製品を併せて、「CA 2E 基本製品」または「CA 2E 製品」と呼びます。

本節の題目

[導入のタイプ \(9 ページ参照\)](#)

[前提条件 \(10 ページ参照\)](#)

[国別言語サポート \(10 ページ参照\)](#)

[製品の認可 \(10 ページ参照\)](#)

導入のタイプ

CA 2E 製品の導入には次の 3 つのタイプがあります。

- 初めての導入

この導入タイプは、新しいお客様の場合 (または、再インストールする場合) です。「CA 2E の導入」の章を参照してください。

- アップグレード導入

この導入タイプは、既に製品がインストールされており、当リリースの新機能にアップグレードする場合です。「アップグレード導入」の章を参照してください。

- 並行導入

この導入タイプは、既に CA 2E を使用しており、現在使用しているリリースのライブラリーとは別の名前で CA 2E 製品ライブラリーをインストールしたい場合です。CA 2E 製品の新しいリリースに対するベータ テスト段階にあり、そのベータ テスト期間、既存の運用環境に影響しないようにしたい場合、このタイプで導入することができます。「並行導入」の章を参照してください。

CA 2E または CA 2E TOOLKIT のインストールを開始する前に、本章の残りの部分および導入するタイプに関連する節をすべて読んでおいてください。

どの導入タイプを選択する場合でも、付録のワークシート「導入ワークシート」を印刷して、項目に記入しておいてください。上記ワークシートは、ライブラリー名を適切に決定するために役立ち、インストール処理の進捗状況を把握できます。

前提条件

CA 2E 製品導入の前提条件は次のとおりです。

- サポートされるオペレーティング システムについては、**Readme** ファイルのシステム要件を参照してください。
- **CA 2E 認可コード**
認可コードが必要な場合、**CA** テクニカル サポート、または、取り扱い代理店にお問い合わせください。

国別言語サポート

本書には、**CA 2E** 開発用国別言語ライブラリー、および、エンド ユーザー環境用国別言語ライブラリーに関する使用方法の説明が含まれています。

英語以外の国別言語ライブラリーは、別の **DVD** に含まれており、必要な言語 **DVD** を明記してご注文ください。

製品の認可

CA 2E TOOLKIT と **CA 2E** 製品では、「認可ライブラリー」によって **CA 2E** ライブラリーへのアクセスが制御されます。

CA 2E 認可ライブラリーのテンプレート ライブラリー (**YLUSLIB0**) が、製品 **DVD** に入っています。認可コマンド **YCRTLUSLIB** を実行すると、テンプレート ライブラリー **YLUSLIB0** を参照して、**CA 2E** 認可ライブラリー **YLUSLIB** が作成または更新されます。

YCRTLUSLIB コマンドが正常に終了すると、**YLUSLIB0** ライブラリーがシステム上からなくなり、**YLUSLIB CA 2E** 認可ライブラリーに置き換わります。**YLUSLIB** は、**IBM i** サーバーへの **CA 2E** 認可コードを制御するライブラリーです。

選択した導入タイプに特有の認可の方法については、本書の対応する章を参照してください。

導入に必要な権限

QSECOFR (または *ALLOBJ、*SECADM、*SAVSYS、および *JOBCTL の特殊権限を持つユーザー プロファイル)でサイン オンすることをお奨めします。

実際に適用される機密レベルは、ご使用の環境に依存します。使用する機密プロファイルについて、システム管理者に確認してください。

第 2 章: CA 2E の導入

本章では、マシンに以前のリリース製品がインストールされていない場合の CA 2E の導入方法について説明します。

以下の手順では、ネットワークに接続された PC の DVD ドライブに、製品のインストール DVD を挿入し、IBM i サーバーへのファイル転送には FTP を使用してインストールすることを想定しています。製品を IBM i サーバーの DVD ドライブからインストールする場合は、付録「IBM i サーバーの DVD ドライブからの導入」を参照してください。

本節の題目

[始める前に \(13 ページ参照\)](#)

[ソフトウェアの導入 \(14 ページ参照\)](#)

[製品オプションの設定 \(21 ページ参照\)](#)

始める前に

インストールを開始する前に次のことに注意してください。

- 付録「導入ワークシート」を印刷して、項目を記入してください。これらのワークシートは、新しいリリースのインストールの際、ライブラリー名などを決定するために役立ちます。
- インストール予定の CA 2E 製品すべてについて、認可コードが取得してあることを確認してください。認可コードのコピーが必要であれば、CA テクニカル サポート、または、取り扱い代理店にお問い合わせください。

ソフトウェアの導入

CA 2E 製品をインストールするには、次の作業を含んでいます。

- 適切な権限でサイン オン
- ファイルを IBM i サーバーにコピー
- 製品ライブラリーを復元
- ソフトウェアを構成
- 製品を認可

適切な権限でサイン オン

QSECOFR または同等のユーザー プロファイルでサイン オンします。(必要な権限レベルについての詳細は、「[導入概要](#)」の章を参照してください。)(9 ページ参照)

ロギング レベルを次のように設定してください。

```
CHGJOB LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

ファイルを IBM i サーバーにコピー

この手順では、ネットワークに接続されている PC から IBM i サーバーにファイルを FTP でコピーする方法について説明します。

注: IBM i サーバーの DVD ドライブからインストールする場合は、次の手順の代わりに付録「IBM i サーバーの DVD ドライブからの導入」の手順に従ってください。

1. CA 2E インストール DVD を、ネットワークに接続されている PC の DVD ドライブに挿入します。
2. インストール DVD の内容を表示して、IBM i サーバーにコピーするファイル SAVF を表示します。

```
<drive>:\> DIR/P
```

3. SAVF ファイルを保持するために一時保存ライブラリーを IBM i サーバー上に作成します。

```
CRTLIB LIB(TEMP2E)
```

4. DOS コマンド プロンプトを開きます。

5. 次のコマンドを実行し、インストール DVD から TEMP2E ライブラリーに FTP で SAVF ファイルをコピーします。

```
FTP myIBM i      (my IBM i は、対象の IBM i サーバー名)
myuserid        (myuserid は、IBM i ユーザー プロファイル)
mypassword      (mypassword は、IBM i パスワード)
bin
lcd <drive>:¥
cd TEMP2E
QUOTE SITE NAMEFMT 1
PUT y1sy.savf
```

事前に記入したワークシート(付録「導入ワークシート」)を確認しながら、PUT コマンドをさらに実行して、対応する SAVF ファイルを IBM i サーバーに転送してください。

```
QUIT    (FTP セッションを終了)
EXIT    (DOS セッションを終了)
```

製品ライブラリーの復元

次の手順を実行して、前節でインストール DVD からコピーした SAVF ファイルから、CA 2E 製品ライブラリーを復元します。

- TEMP2E ライブラリー内の 1 つの SAVF ファイルにつき、ライブラリー復元コマンド (RSTLIB) を 1 回実行します。

SAVF パラメーター用の出荷ライブラリー名および、RSTLIB パラメーター用に選択したライブラリー名を指定します。詳細については、次の例を参照してください。

- TOOLKIT 基本製品ライブラリーを Y1SY ライブラリーに復元するには、次のコマンドを実行します。

```
RSTLIB SAVLIB(Y1SY) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SY) RSTLIB(Y1SY)
```

- TOOLKIT 開発環境の国別言語ライブラリーを復元して、TOOLKIT 基本製品ライブラリーにマージするには、次のコマンドを実行します。

```
RSTLIB SAVLIB(Y1SYVJPN) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SYVJPN) RSTLIB(Y1SY)
```

- バッチで実行する復元コマンドを投入するには、SBMJOB コマンドを使用します。

```
SBMJOB CMD(RSTLIB SAVLIB(Y1SY) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SY
RSTLIB(Y1SY)) JOB(Y1SY) JOBQ(QBATCH) LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

```
SBMJOB CMD(RSTLIB SAVLIB(Y1SYVJPN) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SYVJPN)
RSTLIB(Y1SY)) JOB(Y1SYVJPN) JOBQ(QBATCH) LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

2. ジョブ ログを検証して、すべてのオブジェクトが正常に復元されたことを確認します。そして、次のコマンドを実行してジョブ ログを保存します。

```
DSPJOBLOG OUTPUT(*PRINT)
```

結果のスプール ファイル **QPJOBLOG** を保持しておいてください。エラーが発生した場合、**CA** テクニカル サポートが問題解決するために、ジョブ ログが役に立つことがあります。

Web サービス サポート

Web サービス サポートを使用する場合、**YCA** 構造をダウンロードし、**ROOT** ディレクトリ内の **IFS** にインストールする必要があります。インストール DVD には、**YCA.savf** という名前の **SAVF** ファイルが含まれています。

注: **CA r8.1 SP2** では **Advantage2EEJB** と **Advantage2EWSP** が **YCA** 構造に含まれていましたが、**EJB** オプションは **r8.5** でドロップされ、**YGENEJB** と **YGENWSPXY** コマンドは利用できなくなっているため、本リリースには含まれていません。

IFS 内に既に **YCA** が存在している場合は、その名前を変更して新しいバージョンの **YCA** を復元するか、異なる名前で新しい **YCA** を復元し、既存の **YCA** フォルダに新しいディレクトリーをコピーすることができます。**YCA** の既存バージョンの名前を変更する場合は、保持したい箇所すべてのデータを新しい **YCA** ディレクトリーにコピーすることができます。

製品で提供される **SAVF** ファイルからこのディレクトリーを復元しなければなりません。そのためには、次のコマンドを実行してください。

```
RST DEV('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/YCA.FILE') OBJ((' /YCA'))
```

「ライブラリー名」は、**YCA SAVF** ファイルが存在しているライブラリーの名前を指定します。

PC の **DVD** ドライブからインストール **DVD** を取り出します。

また、**IBM Web** サービス サーバーとスクリプトがインストールされていなければなりません — それらは、**V6R1** で提供されていますが、**V5R4** では専用の **PTF** が必要です。必要な固有の製品および **PTF** については、『アプリケーションの構築』ガイドの「**Web** サービスの作成」節を参照してください。

注: リリースに関係なく、**CA** は最新の **i5/OS PTF** を取得することを推奨します。

IBM Web サービス サーバーを別々に作成および設定しなければなりません。詳細については、[**IBM Web Administration for iSeries**] のガイドを参照してください。

ソフトウェアの構成

CA 2E 製品を起動する前に、開発環境にあわせて構成してください。

注: 製品ライブラリーの名前を変更またはマージした場合には、この後に続く作業を行う際に、その名前を使用してください。また今回インストールしていないライブラリーに関する手順は無視してください。

1. サイン オンしていない場合は、QSECOFR または同等のユーザーで IBM i サーバーにサイン オンします。
2. ログイン レベルを次のように設定します。

```
CHGJOB LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

国別言語ライブラリーの構成

国別言語サポート用のパラメーターを設定する場合には、次の手順を行います。

1. 次の省略値の国別言語を日本語以外にしたい場合には、製品の国別言語の省略値を再設定してください。

```
CHGDTAARA DTAARA(Y1SY/YLNSYA) VALUE(国別言語コード)
```

この値は *JPN で出荷されています。

```
CHGDTAARA DTAARA(Y2SY/YPRDLNGSYA) VALUE(国別言語コード)
```

この値は *JPN で出荷されています。

国別言語コードは、付録のワークシート「導入ワークシート」に載っています。データ域の値は、アスタリスク (*) で始まる国別言語ライブラリー コードです。

2. 開発環境の国別言語ライブラリーを Y2SY にマージした場合 (例えば、Y2SYVJPN を Y2SY にマージした場合) には、内部の国別言語ライブラリー名のデータ域を再設定してください。

```
CHGDTAARA DTAARA(Y2SY/YLNGXXSYA) VALUE(Y2SY)
```

「xxx」は、付録のワークシート「導入ワークシート」に記載されている国別言語ライブラリー コードです。

製品の認可

製品を認可するには、次の作業を行います。

- 製品ライブラリーを現行ライブラリー リストに追加
- ライセンス ルーチンを実行して認可コードを入力

現行ライブラリー リストへの追加

コマンド `EDTLIBL` を使用してデータ オブジェクト ライブラリーと **CA 2E** 製品ライブラリーを現行ライブラリー リストに追加します。

注: `QTEMP` はライブラリー リストの先頭でなければなりません。

- `QTEMP`
- `Y1SYVxxx`
- `Y1SY`
- `Y2SYRPG`
- `Y2SYCBL`
- `Y2SYVxxx`
- `Y2SY`
- `QGPL`

「xxx」は、付録のワークシート「導入ワークシート」に載っている国別言語ライブラリーコードです。国別言語ライブラリーを使用する場合は、基本製品ライブラリーを国別言語ライブラリーの下に置いてください。

国別言語ライブラリーをマージする場合、例えば、`Y1SYVJPN` を `Y1SY` に復元し、`Y2SYVJPN` を `Y2SY` に復元した場合は、次のようなライブラリー リストになります。

- `QTEMP`
- `Y1SY`
- `Y2SYRPG`
- `Y2SYCBL`
- `Y2SY`
- `QGPL`

ライセンス ルーチンの実行

認可コードを使用し、以下の手順に従って、**CA 2E** 製品の認可をします。

1. 次のコマンドを実行して、ライブラリー `YLUSLIB0` を製品 DVD から復元してあることを確認します。

```
WRKLIB YLUSLIB0
```

2. `YCRTLUSLIB` コマンドを実行します。初めてのインストールの場合は、`YLUSLIB` ライブラリーが作成されます。初めてのインストールではない場合は、既存の `YLUSLIB` ライブラリーが更新されます。

3. ライブラリー `YLUSLIB` が **IBM i** サーバー上に存在することを確認します。

```
WRKLIB YLUSLIB
```

4. F4 キーを入力して、YGRTLICAUT コマンドのプロンプトを表示し、CA ライセンスデスク、または、取り扱い代理店経由で入手した機密コードをキー入力できるようにします。各フィールドに 4 桁の 16 進数値を入力後、実行キーを押します。サーバー上の製品が認可されます。
5. 認可されている製品、リリースレベル、満了日、同時実行可能な対話型ジョブの許容最大数のリストを、製品ライセンス表示コマンド YDSPLICPRD を実行して、表示してください。
6. チェック リストに満了日を書き留めてください。

注: 間違った認可コードを入力してしまった場合は、再入力してください。製品を使用しようとした時に、エラー メッセージが表示された場合は、テクニカル サポートにお問い合わせください。

データ オブジェクトの作成

1. CA 2E TOOLKIT データ オブジェクトを作成します。

このデータ オブジェクトは、TOOLKIT 基本製品ライブラリー内、または CA 2E 以外の別のユーザー ライブラリー内のどちらかに置くことができます。

注: QGPL にオブジェクトを置かないでください。

```
YCRTY1DTA LIB(Y1SY)      または
YCRTY1DTA LIB(新しいデータ オブジェクト ライブラリー)
```

2. TOOLKIT のユーザー プロファイルとパスワードの拡張機能を認可します。

```
YSETY1AUT
```

このコマンドは、TOOLKIT ユーザー プロファイルとパスワード許可の機能を有効にします。

3. 次のコマンドを使用してジョブ ログを保管します。

```
DSPJOBLOG OUTPUT(*PRINT)
```

結果のスプール ファイル QPJOBLOG を保持しておいてください。エラーが発生した場合、CA テクニカル サポートが問題を解決するために、ジョブ ログが役に立つことがあります。

YSYS ライブラリー リストの構築

YSYS ライブラリー リストを構築します。(これは、後で CA 2E モデルを構築するときに使用します。)

```
YBLDLIBLST LIBLST(YSYS) CURLIB(*NOCHG)
```

TOOLKIT ライブラリー リストについては、『TOOLKIT リファレンス ガイド』を参照してください。

2E システム値の見直し

CA 2E システム値を確認してください (次の表を参照)。必要な場合、YCHGMDLVAL コマンドを使用して、これらの製品の省略値を変更します。

「システム値」は、CA 2E モデルの作成時に使用される省略値です。YACTSYM と YDATFMT を除くすべてのシステム値は、各ユーザー モデルで上書きすることができます。システム値と YCHGMDLVAL の詳細については、CA 2E『コマンドリファレンス』を参照してください。

システム値	省略値	説明
YACTSYM	.	アクション ダイアグラム構造に使用される記号
YDATFMT	*MDY	作成されるアプリケーションの日付形式
YSYSCHG	*NONE	ライブラリー変更管理の省略値
YSYSDBF	*DDS	データ定義言語の省略値
YSYSHLL	*RPGIV	HLL ジェネレーターの省略値
YSYSNPH	*UIM	NPT ヘルプ テキストの省略時言語
YSYSPMT	*OFF	デバイス リテラルの省略時生成モード
YSYSSAA	*CUAENTRY	SAA フォーマットの省略値

製品オプションの設定

CA 2E および TOOLKIT を使用する前に、次のように製品オプションを設定する必要があります。

1. 次のコマンドを実行して、[導入用 マスター メニュー] を表示してください。

YGO MENU(*Y0)

マスター メニューには 2 つのオプションがあります。

- CA 2E TOOLKIT 導入メニュー
- CA 2E 導入メニュー

どちらの製品の導入メニューにも、必須と任意の 2 つのグループに分けられたいくつかのオプションがあります。

2. CA 2E 製品が正しく動作するように、この後に続く手順に従って各必須オプションを実行してください。

作業環境の管理についての詳細情報

システム管理者ではない場合でも、どのサブシステムが使用されるのか、または、どのサブシステムがコンパイル プリプロセッサで使用されるのかなど、特定の機能に関する詳細情報が必要になることがあります。

以下の節で説明する製品オプションは、CA 2E の作業環境管理機能の一部です。上記オプションの構成を行う前に、『アプリケーションの生成と実装』マニュアルを参照してください。

CA 2E TOOLKIT 導入メニュー

本章の節「製品の認可」の各手順を既に完了している必要があります。この作業を終了していると、メニュー項目の 1 と 2 は完了しています。ソフトウェアの構成を続けるには、次のメニュー オプションから適切なオプションを選択してください。

導入メニュー

必須導入のステップ

1. 認可済プロダクトの情報を表示
2. プロダクト権限の認可
3. コンパイル プリプロセッサ導入のメニュー
4. YSETYIAUT による TOOLKIT ユーザー プロファイルの設定

選択的導入のステップ

5. 選択的導入のメニュー

プリプロセッサ経路指定項目の定義

プリプロセッサ経路指定項目の定義は、自動的にコンパイラーの上書きを適用したり、どのオブジェクトが正常にコンパイルされたのかをチェックするために必要です。オプション 3 を選択した場合に表示されるメニューを下図に示します。

コンパイル プリプロセッサ経路指定メニュー

1. サブシステムが使用されていないことを確認してください。
2. サブシステムを終了
3. コンパイル プリプロセッサ用の経路指定項目を追加
4. サブシステムを再開
5. 既存ジョブ記述の経路指定データを変更

注: メニュー オプション 1、2 および 4 は、スキップしても支障ありません。経路指定項目を新規に定義する前に、サブシステムが使用されていないことを確認したり、いったん停止してから再起動する必要はなくなりました。

オプション 3 を選択すると、コンパイルに使用するサブシステム(複数可)への経路指定項目を追加できます。オプション 3 にも、サブメニューがあります。

オプション 5 は、関連するジョブ記述が指定された経路指定データを使用するように変更します。各 CA 2E データ モデルには、バッチ ジョブを投入するために使用するジョブ記述が含まれています。このジョブ記述の名前は、モデル値の YCRTJBD (生成されたオブジェクトをコンパイルする JOB) で指定されています。このジョブ記述はどの経路指定データを使用するかを制御します。

注: CA 2E モデルライブラリー作成コマンド (YCRTMDLLIB) で作成した新しいモデルのジョブ記述は、CA 2E のヌル モデル ライブラリー (Y2SYMDL) の QBATCH ジョブ記述から初期値を取得します。このジョブ記述を変更することでユーザー独自の標準を設定できます。

コンパイル プリプロセッサの導入

これは任意の方法ですが、コンパイル プロセッサを i OS のプログラマー メニュー (QPGMMENU) や PDM の WRKMBRPDM パネルにあるコンパイル オプション 14 で使用することができます。この機能についての詳細は、CA 2E 『TOOLKIT コンセプト ガイド』にある「プログラマー支援」の章を参照してください。

ジョブが正しい経路指定データで投入されるようにするには、以下のステップを完了する必要があります。インストールされたソフトウェアのジョブ投入コマンド (SBMJOB) 用のシステム省略値は、*JOBDB ではなく QCMDB です。

1. プリプロセッサのセットアップは、次の方法のいずれかによって行うことができます。

- QSYS のコマンド SBJJOB の経路指定データの省略値 (RTGDTA) パラメーターを省略値の QCMDB から *JOBDB に変更

```
CHGCMDFT CMD(QSYS/SBJJOB) NEWDFT('RTGDTA(*JOBDB)')
```

- 次のコマンドを入力して、コマンドのコピーを作成して修正

```
CRTLIB LIB(YSYS) TEXT(システム コマンドの代替バージョン)
```

```
CRTDUPOBJ OBJ(QSYS/SBJJOB) OBJTYPE(*CMD) TOLIB(YSYS)
```

```
CHGCMDFT CMD(YSYS/SBJJOB) NEWDFT('RTGDTA(*JOBDB)')
```

2. プログラマー メニューを使用している場合、修正バージョンを含んでいるライブラリーは、呼び出しジョブのライブラリー リストの QSYS 項目より上位に置いてください。

重要! この作業は、オペレーティング システムの新リリースを導入するたびに行う必要があります。これを行わない場合、カスタマイズした SBJJOB コマンドが、新リリースのオペレーティング システム導入後に機能しなくなります。

3. 代替のライブラリー (YSYS) を、次のどちらかの方法でライブラリー リストのシステム部分に追加してください。

...一時的に追加する場合

```
CHGSYSLIBL LIB(YSYS)
```

... 常に追加する場合

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QSYSLIBL) VALUE(YSYS QSYS QHLSYS QUSRSYS)
```

ユーザー プロファイルとパスワード拡張機能の認可

CA 2E TOOLKIT 導入メニューのオプション 4 を選択すると、ユーザー プロファイルとパスワードの拡張機能に QSYS 権限が与えられます。

注: メニューは表示されませんが、認可が正常に行われたことを示す「採用権は要求された TOOLKIT プログラムに対し正しく認可された。」というメッセージが表示されます。

TOOLKIT 選択的導入のステップ

このメニューでは、CA 2E TOOLKIT 製品のオプションを設定できます。このメニューの項目は、すべて任意です。IBM i サーバー コマンドについての詳細は、各パネルのオンライン ヘルプを参照してください。

TOOLKIT 導入メニュー

1. プロダクト ライブラリーを含むよう QUSRLIBL を変更
2. プロダクト ライブラリーの中の印刷ファイルを変更
3. メニュー、文書用の会社名を変更
4. 設計ユーティリティー用のアプリケーション名を変更
5. YEXCOBJLST, YEXCMBRLST, YEXCDBFLST コマンド用に追加の代替文字を指定
6. TOOLKIT 設計ユーティリティー用省略値を変更

オプション 2 を選択すると、TOOLKIT 製品ライブラリーの印刷ファイルすべてのフォーム タイプや 1 インチあたりの行数といった印刷ファイル属性を変更して、ユーザーのシステム標準に合わせるすることができます。製品ライブラリー名として「Y1SY」、または TOOLKIT の復元先ライブラリーの名前を指定してください。

インストールしたすべての TOOLKIT 開発環境の国別言語 (例えば、Y1SYVJPN) にもこの変更を行なう必要があります。

オプション 6 を選択すると、パネル、帳票、ボックス文字など、CA 2E TOOLKIT 設計の省略値を変更できます。

CA 2E 導入メニュー

メニュー上のオプションを選択することで、その導入ステップが開始されます。

ジョブ待ち行列のチェック

コンパイルメニューのジョブ待ち行列をチェックし、コンパイルの自動投入先とするジョブ待ち行列を指定してください。次のオプションおよびメニューが用意されています。

ジョブ待ち行列メニュー

1. WRKSBSD

ジョブ待ち行列がそのサブシステムに接続されていることを確認し、そのジョブ待ち行列の最大活動が1になっていることを確認してください。

2. サブシステムの終了

3. 「最大活動」の変更

4. サブシステムの再開

注: ジョブ待ち行列を出荷時の省略値 QBATCH 以外にした場合、関連するジョブ記述も変更し、そのジョブ待ち行列が使用されるようにしてください。各 CA 2E データモデルには、バッチジョブを投入するために使用するジョブ記述が含まれています。このジョブ記述の名前は、モデル値 YCRTJBD で指定されています。ジョブ記述は、どのジョブ待ち行列を使用するかを制御します。ジョブ記述が別のジョブ待ち行列を使用するよう変更するには、ジョブ記述変更コマンド (CHGJOB) を使用してください。

CA 2E のモデルライブラリー作成コマンド (YCRTMDLLIB) で作成された新しいモデルのジョブ記述は、CA 2E のヌルモデルライブラリー (Y2SYMDL) のジョブ記述 QBATCH から初期値を取得します。先の定義と同様、このジョブ記述を変更して、ユーザー独自の標準に変更できます。

選択的導入のステップ

[選択的導入のステップ] のメニューには、次のオプションがあります。

選択的導入メニュー

1. プロダクト ライブラリー内の印刷属性を変更
2. 新しいファンクション用の省略値の HLL を変更 - RPG
3. 新しいファンクション用の省略値の HLL を変更 - RPGIV
4. 新しいファンクション用の省略値の HLL を変更 - CBL
5. 新しいファンクション用の省略値の HLL を変更 - CBLLE
6. アクション ダイアグラムの記号を変更 - 繰返し
7. アクション ダイアグラムの記号を変更 - 順次
8. アクション ダイアグラムの記号を変更 - コンディション

オプション 1 では、CA 2E 製品ライブラリーの印刷ファイルすべてのフォーム タイプや 1 インチあたりの行数といった印刷ファイル属性を変更して、ユーザーのシステム標準に合わせることができます。製品ライブラリー名として「Y2SY」、CA 2E プログラムを復元したライブラリー名を指定してください。

インストールしたすべての CA 2E 開発環境の国別言語 (例えば、Y2SYVJPN) に対しても、この変更を行なう必要があります。

第 3 章: アップグレード導入

本章では、すでに CA 2E 製品を使用しており、本リリースにアップグレードする場合の導入方法について説明します。

以下の手順では、ネットワークに接続された PC の DVD ドライブに、製品のインストール DVD を挿入し、IBM i サーバーへのファイル転送には FTP を使用してインストールすることを想定しています。製品を IBM i サーバーの DVD ドライブからインストールする場合は、付録「IBM i サーバーの DVD ドライブからの導入」を参照してください。

本節の題目

[始める前に \(27 ページ参照\)](#)

[ソフトウェアのアップグレード \(28 ページ参照\)](#)

[既存 CA 2E 設計モデルのアップグレード \(36 ページ参照\)](#)

始める前に

インストールを開始する前に次のことに注意してください。

- 付録「導入ワークシート」を印刷して、項目を記入してください。これらのワークシートは、新しいリリースのインストールの際、ライブラリー名などを決定するために役立ちます。
- アップグレードの作業で、既存の製品ライブラリーが消去されるため、既存の製品ライブラリーすべてのバックアップを取ってください。
- インストール予定の CA 2E 製品すべてについて、認可コードが取得してあることを確認してください。認可コードのコピーが必要であれば、CA テクニカル サポート、または、取り扱い代理店にお問い合わせください。
- インストール時に CA 2E 製品ライブラリーを使用していないか確認してください。いかなる対話式セッションのライブラリー リストでも、CA 2E 製品ライブラリーが使用されてはなりません。ライブラリーにロックが掛かっているか確認するには、ワーク オブジェクト ロック (WRKOBJLCK) コマンドを実行してください。

ソフトウェアのアップグレード

既存の CA 2E 製品ライブラリーのアップグレードは次の手順で行います。

- 適切な権限でサイン オン
- データおよびユーザー オブジェクトを移動
- ファイルを IBM i サーバーにコピー
- 製品ライブラリーを復元
- ソフトウェアを構成
- 製品を認可
- 既存の設計モデルおよびバッチ ジョブ記述をアップグレード

適切な権限でサイン オン

QSECOFR または同等のユーザー プロファイルでサイン オンします。(必要な権限レベルについての詳細は、「[導入概要](#)」の章を参照してください。)

ロギング レベルを次のように設定してください。

```
CHGJOB LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

データおよびユーザー オブジェクトの移動

データ オブジェクトおよびユーザーが変更できるオブジェクトが、製品ライブラリー内に存在している場合、新しい製品ファイルをインストールする前に、それらを移動させる必要があります。移動しないでインストールした場合、製品ライブラリー内のデータおよびユーザー オブジェクトは上書きされます。

1. WRKOBJ コマンドを使用して、TOOLKIT データ オブジェクトが含まれているライブラリー名を見つけてください。

```
WRKOBJ *ALL/YLIBLST *FILE
```

TOOLKIT 製品に TOOLKIT データ オブジェクトが入っている場合、CA 2E 以外のライブラリーに移してください。例えば、TEMPLIB というライブラリーを一時保存用ライブラリーとして作成します。そして、コマンド YMOVY1DTA を実行してオブジェクトを移動します。

```
CRTLIB LIB(TEMPLIB)
```

```
YMOVY1DTA FROMLIB(Y1SY) TOLIB(TEMPLIB)
```

- 複製オブジェクト作成コマンド (CRTDUPOBJ) を実行して、次のユーザー変更可能オブジェクトを **TEMPLIB** に保管し、あとで参照できるようにしてください。

```
CRTDUPOBJ OBJ(YAU0OPT) FROMLIB(Y1SY) OBJTYPE(*FILE) TOLIB(TEMPLIB)
DATA(*YES)
```

```
CRTDUPOBJ OBJ(YEDTCDFRFP) FROMLIB(Y2SY) OBJTYPE(*FILE) TOLIB(TEMPLIB)
DATA(*YES)
```

```
CRTDUPOBJ OBJ(YMDLPRFRFP) FROMLIB(Y2SYMDL) OBJTYPE(*FILE) TOLIB(TEMPLIB)
DATA(*YES)
```

- ワークシート (付録「導入ワークシート」) に事前に記入してある内容を確認して、既存の製品ライブラリーを消去してください。次に例を示します。
 - 次のコマンドを実行して、**TOOLKIT** 基本製品ライブラリー (省略時の名前は **Y1SY** です) を消去します。

```
CLRLIB LIB(Y1SY)
```

- コマンド **SBMJOB** を実行して、バッチ ジョブとして消去コマンドを投入します。

```
SBMJOB CMD(CLRLIB LIB(Y1SY)) JOB(CLRY1SY) JOBQ(QBATCH)
LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

- システム上に **Y2PTF** ライブラリーなど、以前の **PTF** ライブラリーがある場合は、消去してください。

ファイルを IBM i サーバーにコピー

この手順では、ネットワークに接続されている PC から IBM i サーバーに FTP を使用してファイルをコピーする方法について説明します。

注: IBM i サーバーの DVD ドライブからインストールする場合は、次の手順の代わりに付録「IBM i サーバーの DVD ドライブからの導入」の手順に従ってください。

- 2E インストール DVD を、ネットワークに接続されている PC の DVD ドライブに挿入します。
- インストール DVD の内容を表示して、IBM i サーバーにコピーするファイル **SAVF** を表示します。

```
<drive>:\> DIR/P
```

- SAVF** ファイルを保持するための一時保存ライブラリーを IBM i サーバー上に作成します。

```
CRTLIB LIB(TEMP2E)
```

- DOS コマンド プロンプトを開きます。
- 次のコマンドを実行し、インストール DVD から **TEMP2E** ライブラリーに FTP で **SAVF** ファイルをコピーします。

```

FTP myIBM i      (「myIBM i」は、対象の IBM i サーバー名)
myuserid        (「myuserid」は、IBM i ユーザー プロファイル)
mypassword      (「mypassword」は、IBM i パスワード)
bin
lcd <drive>:¥
cd TEMP2E
QUOTE SITE NAMEFMT 1
PUT y1sy.savf

```

事前に記入したワークシート(付録「導入 ワークシート」)を確認しながら、PUT コマンドをさらに実行して、対応する SAVF ファイルを IBM i サーバーに転送します。

```

QUIT          (FTP セッションを終了)
EXIT          (DOS セッションを終了)

```

製品ライブラリーの復元

次の手順を実行して、前節でインストール DVD からコピーした SAVF ファイルから CA 2E 製品ライブラリーを復元します。

1. TEMP2E ライブラリー内の 1 つの SAVF ファイルにつき、ライブラリー復元コマンド (RSTLIB) を 1 回実行します。

SAVF パラメーター用の出荷ライブラリー名および、RSTLIB パラメーター用に選択したライブラリー名を指定します。次の例を参照してください。

- TOOLKIT 基本製品ライブラリーを Y1SY ライブラリーに復元するには、次のコマンドを実行します。

```
RSTLIB SAVLIB(Y1SY) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SY) RSTLIB(Y1SY)
```

- TOOLKIT 開発環境の国別言語ライブラリーを復元して、TOOLKIT 基本製品ライブラリーにマージするには、次のコマンドを実行します。

```
RSTLIB SAVLIB(Y1SYVJPN) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SYVJPN) RSTLIB(Y1SY)
```

- バッチで実行する復元コマンドを投入するには、SBMJOB コマンドを実行します。

```
SBMJOB CMD(RSTLIB SAVLIB(Y1SY) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SY)
RSTLIB(Y1SY)) JOB(Y1SY) JOBQ(QBATCH) LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

```
SBMJOB CMD(RSTLIB SAVLIB(Y1SYVJPN) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SYVJPN)
RSTLIB(Y1SY) ) JOB(Y1SYVJPN) JOBQ(QBATCH) LOG(4 00 *SECLVL)
OGCLPGM(*YES)
```

2. ジョブ ログを検証して、すべてのオブジェクトが正常に復元されたことを確認します。そして、次のコマンドを実行してジョブ ログを保存します。

```
DSPJOBLOG OUTPUT(*PRINT)
```

結果のスパール ファイル QPJOBLOG を保持しておいてください。エラーが発生した場合、CA テクニカル サポートが問題を解決するために、ジョブ ログが役に立つことがあります。

3. PC の DVD ドライブからインストール DVD を取り出します。

ソフトウェアの構成

CA 2E 製品を起動する前に、開発環境にあわせて構成してください。

注: 製品ライブラリーの名前を変更またはマージした場合には、この後に続く作業を行う際に、その名前を使用してください。また今回インストールしていないライブラリーに関する手順は無視してください。

1. サインオンしていない場合は、QSECOFR または同等のユーザーで IBM i サーバーにサインオンします。
2. ログインレベルを次のように設定します。

```
CHGJOB LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

国別言語ライブラリーの構成

国別言語サポート用のパラメーターを設定する場合には、次の手順を行います。

1. 次の省略値の国別言語を日本語以外にしたい場合には、製品の国別言語の省略値を再設定してください。

```
CHGDTAARA DTAARA(Y1SY/YLNSYA) VALUE(国別言語コード)
```

この値は *JPN で出荷されています。

```
CHGDTAARA DTAARA(Y2SY/YPRDLNGSYA) VALUE(国別言語コード)
```

この値は *JPN で出荷されています。

国別言語コードは、付録のワークシート「導入ワークシート」に記載されています。データ域の値は、アスタリスク (*) で始まる国別言語ライブラリーコードです。

2. 開発環境の国別言語ライブラリーを Y2SY にマージした場合 (例えば、Y2SYVJPN を Y2SY にマージした場合) には、内部の国別言語ライブラリー名のデータ域を再設定してください。

```
CHGDTAARA DTAARA(Y2SY/YLNGXXXSYA) VALUE(Y2SY)
```

「xxx」は、付録のワークシート「導入ワークシート」に記載されている国別言語ライブラリーコードです。

製品の認可

製品を認可するには、次の作業を行います。

- 製品ライブラリーを現行ライブラリー リストに追加
- ライセンス ルーチンを実行して認可コードを入力

現行ライブラリー リストへの追加

1. コマンド `EDTLIBL` を使用してデータ オブジェクト ライブラリーと `CA 2E` 製品ライブラリーを現行ライブラリー リストに追加します。

注: `QTEMP` はライブラリー リストの先頭でなければなりません。

- `QTEMP`
- `Y1SYVxxx`
- `Y1SY`
- `Y2SYRPG`
- `Y2SYCBL`
- `Y2SYVxxx`
- `Y2SY`
- `QGPL`

「xxx」は、付録のワークシート「導入ワークシート」に載っている国別言語ライブラリー コードです。国別言語ライブラリーを使用する場合は、基本製品ライブラリーを国別言語ライブラリーの下に置いてください。

国別言語ライブラリーをマージする場合、例えば、`Y1SYVJPN` を `Y1SY` に復元し、`Y2SYVJPN` を `Y2SY` に復元した場合は、次のようなライブラリー リストになります。

- `QTEMP`
- `Y1SY`
- `Y2SYRPG`
- `Y2SYCBL`
- `Y2SY`
- `QGPL`

- オブジェクトロック処理コマンド (WRKOBJLCK) を実行して、CA 2E 認可ライブラリーが使用されていないことを確認します。

```
WRKOBJLCK OBJ(QSYS/YLUSLIB) OBJTYPE(*LIB)
```

```
WRKOBJLCK OBJ(YLUSLIB/YLICREGP) OBJTYPE(*FILE) MBR(*ALL)
```

- YLUSLIB のロックを解放します。(この作業は、次節のコマンド YCRTLUSLIB を発行するまでに行っておく必要があります)。

ライセンス ルーチンの実行

次の手順に従って、製品の認可をします。

- 既に存在している場合、YLUSLIBSAV ライブラリーを削除します。

```
DLTLIB LIB(YLUSLIBSAV)
```

- 現行の YLUSLIB のバックアップ コピーを作成します。

```
CPYLIB FROMLIB(YLUSLIB) TOLIB(YLUSLIBSAV)
```

- 製品 DVD からライブラリー YLUSLIB0 が復元してあることを、次のコマンドを実行して確認します。

```
WRKLIB YLUSLIB0
```

- YCRTLUSLIB コマンドを実行して、既存の YLUSLIB ライブラリーを更新します。

- F4 キーを入力して、YGRTLICAUT コマンドのプロンプトを表示し、CA ライセンスデスク、または、取り扱い代理店経由で入手した機密コードをキー入力できるようにします。各フィールドに 4 桁の 16 進数値を入力後、実行キーを押します。サーバー上の製品が認可されます。

- 製品が正しく認可されているかどうか、製品ライセンス表示コマンド YDSPLICPRD を実行して確認します。

このコマンドを実行すると、認可されている製品、リリース レベル、満了日、同時実行可能な対話型ジョブの許容最大数のリストが表示されます。

- チェック リストに表示された満了日を書き留めてください。

注: 間違った認可コードを入力してしまった場合は、再入力してください。製品を使用しようとした時に、エラー メッセージが表示された場合は、テクニカル サポートにお問い合わせください。

データおよびユーザー オブジェクトの更新

1. TOOLKIT データ オブジェクトを Y1SY ライブラリーから移動した場合は、次のコマンドを実行して Y1SY ライブラリー内に戻します。

```
YMOVY1DTA FROMLIB(TEMPLIB) TOLIB(Y1SY)
```

2. TOOLKIT データ オブジェクトが Y1SY ライブラリーに存在する場合は、次のコマンドでオブジェクトを更新します。

```
YCRTY1DTA LIB(Y1SY)
```

TOOLKIT データ オブジェクトが上記以外のライブラリーに存在する場合は、次のコマンドでオブジェクトを更新します。

```
YCRTY1DTA LIB(対象のデータ オブジェクト ライブラリー)
```

アップグレード処理は、新しい TOOLKIT データ オブジェクトを自動的に追加し、既存の TOOLKIT データ オブジェクトを更新します。

注: TOOLKIT データ オブジェクトを QGPL ライブラリーには置かないでください。

CA 2E アプリケーション開発者に確認し、YEDTCDERFP、YAUOOPT、YMDLPRFRFP ファイルのどのユーザー定義レコードを保持する必要があるのかを特定してください。レコードが特定できたら、新しい製品ライブラリーの対応するファイルにコピーします。

注: 新しい製品ライブラリーにファイル全体をコピーしても、この作業を正常に完了することはできません。ユーザー定義データは、手作業でコピーする必要があります。作成した一時保存ライブラリーを削除します。

```
DLTLIB LIB(TEMPLIB)
```

この手順は、導入および構成作業がすべて完了した後でも行うことができます。

3. YWRKLIBLST コマンドおよびオプション 2 を使用して、インストール済みの PTF ライブラリーを対話型およびバッチ ジョブ定義のライブラリー リストから削除します。

TOOLKIT 製品の認可

1. 次のコマンドを実行して、TOOLKIT のユーザー プロファイルとパスワードの拡張機能を認可します。

YSETY1AUT

このコマンドは、TOOLKIT のユーザー プロファイルとパスワード検証機能を有効にします。

2. 次のコマンドを実行して、ジョブ ログ ファイルを保存します。

DSPJOBLOG OUTPUT(*PRINT)

結果のスパール ファイル QPJOBLOG を保持しておいてください。エラーが発生した場合、CA テクニカル サポートが問題を解決するために、ジョブ ログが役に立つことがあります。

2E システム値の見直し

CA 2E システム値を確認してください (次の表を参照)。必要な場合、YCHGMDLVAL コマンドを使用して、これらの製品の省略値を変更します。

「システム値」は、CA 2E モデルの作成時に使用される省略値です。YACTSYM と YDATFMT を除くすべてのシステム値は、各ユーザー モデルで上書きすることができます。システム値と YCHGMDLVAL の詳細については、CA 2E『コマンド リファレンス』を参照してください。

システム値	省略値	説明
YACTSYM	.	アクション ダイアグラム構造に使用される記号
YDATFMT	*MDY	作成されるアプリケーションの日付形式
YSYSCHG	*NONE	ライブラリー変更管理の省略値
YSYSDBF	*DDS	データ定義言語の省略値
YSYSHLL	*RPGIV	HLL ジェネレーターの省略値
YSYSNPH	*UIM	NPT ヘルプ テキストの省略時言語
YSYSPMT	*OFF	デバイス リテラルの省略時生成モード
YSYSSAA	*CUAENTRY	SAA フォーマットの省略値

既存 CA 2E 設計モデルのアップグレード

CA 2E の既存バージョンをアップグレードした後、変換処理を実行して設計モデルを更新する必要があります。設計モデルのアップグレードは、次の手順で行います。

- 適切な権限でサイン オン
- ライブラリー リストを変更
- アップグレード ユーティリティを実行

適切な権限でサイン オン

CA 2E の設計モデルをアップグレードするには、次の手順を行います。

1. サイン オンしていない場合は、QSECOFR または同等のユーザーで IBM i サーバーにサイン オンします。
2. 既存モデルのバック アップを取っておきます。

注: バックアップを取るときは、SAVLIB のパラメーター「アクセス・パス保管」を *YES にしてください。

ライブラリー リストの変更

1. ヌル モデル データ域に CA 2E のヌル モデル ライブラリー Y2SYMDL の名前が入っていることを確認します。

DSPDTAARA DTAARA(Y2SY/YNLLMDLRFA)

重要! このデータ域が、ユーザーが修正したヌル モデルを参照している場合は、深刻なモデルの破損が起こる可能性があるため、アップグレードバージョンで提供されるヌル モデルを再参照させなければなりません。

CHGDTAARA DTAARA(Y2SY/YNLLMDLRFA) VALUE(Y2SYMDL)

2. EDTLIBL コマンドを使用して、インストールした CA 2E 製品、国別言語、高水準言語ライブラリーをライブラリー リストに追加します。

通常、次のライブラリーが CA 2E 製品の実行に必要です。

- QTEMP
- Y1SYVxxx
- Y1SY
- Y2SYRPG
- Y2SYCBL
- Y2SYVxxx

- Y2SY
- QGPL

「xxx」は、付録のワークシート「導入ワークシート」に載っている国別言語ライブラリーコードです。国別言語ライブラリーを使用する場合は、基本製品ライブラリーを国別言語ライブラリーの下に置いてください。

TOOLKIT データ オブジェクトが Y1SY がない場合は、TOOLKIT データ ライブラリーを Y1SY の下に置いてください。

注: ジェネレーター ライブラリーは、インストールされたもののみを追加します。(Y2SYRPG、Y2SYCBL のどちらか、または両方)

アップグレード ユーティリティの実行

1. ライブラリー リストからすべてのモデルを除去します。
2. 各モデルに対して別々のバッチ ジョブを使用し、モデルをアップグレードします。バッチ ジョブは、単一スレッドのジョブ待ち行列で 1 つずつ実行すべきです。

```
SBMJOB CMD(YAPYMDLCHG MDLLIB(モデル ライブラリー名)) INLLIBL(*CURRENT) +
LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

3. バッチのジョブ ログをチェックし、各モデルが正常にアップグレードされたことを確認します。コマンドは、終了コード「0」で完了している必要があります。終了コードが「0」でない場合は、テクニカル サポートにお問い合わせください。
4. アプリケーション オブジェクト複製コマンド (YDUPAPPOBJ) を製品ライブラリー以外のアプリケーション オブジェクトを含むライブラリーに対して実行します。

次のコマンドを実行すると、CA 2E アプリケーション オブジェクトが、どのライブラリーに含まれているのかを見つけることができます。

```
WRKOBJ OBJ(*ALLUSR/YGO) OBJTYPE(*CMD)
```

重要! YDUPAPPOBJ は、Y1SY などの製品ライブラリーに対しては、実行しないでください。

YDUPAPPOBJ コマンドの詳細は、CA 2E『コマンドリファレンス ガイド』および『アプリケーションの生成と実装』を参照してください。

第 4 章: 並行導入

本章では、すでに CA 2E 製品を使用しており、さらに現行の製品ライブラリーとは別の名前で、新たな CA 2E ライブラリーをインストールしたい場合の導入方法について説明します。例えば、CA 2E 製品の新しいバージョンに対するベータ テスト段階にあり、並行してソフトウェアをロードするような場合、並行導入を行えば、そのベータ テストを既存の運用環境への影響なく行えます。

以下の手順では、ネットワークに接続された PC の DVD ドライブに、製品のインストール DVD を挿入し、IBM i サーバーへのファイル転送には FTP を使用してインストールすることを想定しています。製品を IBM i サーバーの DVD ドライブからインストールする場合は、付録「IBM i サーバーの DVD ドライブからの導入」を参照してください。

本節の題目

[始める前に \(39 ページ参照\)](#)

[ソフトウェアの並行追加 \(40 ページ参照\)](#)

[既存 CA 2E 設計モデルのアップグレード \(48 ページ参照\)](#)

始める前に

インストールを開始する前に次の点に注意してください。

- 付録「導入ワークシート」を印刷して、項目を記入してください。これらのワークシートは、新しいリリースのインストールの際、ライブラリー名などを決定するために役立ちます。
- インストール予定の CA 2E 製品すべてについて、認可コードが取得してあることを確認してください。認可コードのコピーが必要であれば、CA テクニカル サポート、または、取り扱い代理店にお問い合わせください。

注: 製品ライブラリーの名前を変更する場合、各出荷ライブラリー名の最初の 1 文字のみを置き換えることをお奨めします。例えば、Y を Z のような他の文字で置き換え。

重要! YLUSLIBO は名前を変更しないでください。

ソフトウェアの並行追加

既存の CA 2E 製品ライブラリーにソフトウェアを並行導入するには、次の手順で行います。

- 適切な権限でサイン オン
- ファイルを IBM i サーバーにコピー
- 製品ライブラリーを復元
- ソフトウェアを構成
- 製品を認可
- 既存の設計モデルおよびバッチ ジョブ記述をアップグレード

適切な権限でサイン オン

QSECOFR または同等のユーザー プロファイルでサイン オンします。(必要な権限レベルについての詳細は、「[導入概要](#)」の章を参照してください。)

ロギング レベルを以下のように設定してください。

```
CHGJOB LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

ファイル IBM i サーバーにコピー

この手順では、ネットワークに接続されている PC から IBM i サーバーに FTP を使用してファイルをコピーする方法について説明します。

注: IBM i サーバーの DVD ドライブからインストールする場合は、次の手順の代わりに付録「IBM i サーバーの DVD ドライブからの導入」の手順に従ってください。

1. 2E インストール DVD を、ネットワークに接続されている PC の DVD ドライブに挿入します。
2. インストール DVD の内容を表示して、IBM i サーバーにコピーするファイル SAVF を表示します。

```
<drive>:\> DIR/P
```

3. SAVF ファイルを保持するための一時保存ライブラリーを IBM i サーバー上に作成します。

```
CRTLIB LIB(TEMP2E)
```

4. DOS コマンド プロンプトを開きます。
5. 次のコマンドを実行し、インストール DVD から TEMP2E ライブラリーに FTP で SAVF ファイルをコピーします。


```

FTP myIBM i      (「myIBM i」は、対象の IBM i サーバー名)
myuserid        (「myuserid」は、IBM i ユーザー プロファイル)
mypassword      (「mypassword」は、IBM i パスワード)
bin
lcd <drive>:¥
cd TEMP2E
QUOTE SITE NAMEFMT 1
PUT y1sy.savf

```

事前に記入したワークシート(付録「導入 ワークシート」)を確認しながら、PUT コマンドをさらに実行して、対応する SAVF ファイルを IBM i サーバーに転送します。

```

QUIT           (FTP セッションを終了)
EXIT           (DOS セッションを終了)

```

製品ライブラリーの復元

次の手順を実行して、前節でインストール DVD からコピーした SAVF ファイルから CA 2E 製品ライブラリーを復元します。

1. TEMP2E ライブラリー内の 1 つの SAVF ファイルにつき、ライブラリー復元コマンド (RSTLIB) を 1 回実行します。

SAVF パラメーター用の出荷ライブラリー名および、RSTLIB パラメーター用に選択したライブラリー名を指定します。次の例を参照してください。

- TOOLKIT 基本製品ライブラリーを Z1SY ライブラリーに復元するには、次のコマンドを実行します。

```
RSTLIB SAVLIB(Y1SY) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SY) RSTLIB(Z1SY)
```

- TOOLKIT 開発環境の国別言語ライブラリーを復元して、TOOLKIT 基本製品ライブラリーにマージするには、次のコマンドを実行します。

```
RSTLIB SAVLIB(Y1SYVJPN) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SYVJPN) RSTLIB(Z1SY)
```

- バッチで実行する復元コマンドを投入するには、SBMJOB コマンドを実行します。

```

SBMJOB CMD(RSTLIB SAVLIB(Y1SY) DEV(*SAVF) SAVF(TEMP2E/Y1SY
RSTLIB(Z1SY)) JOB(Y1SY) JOBQ(QBATCH) LOG(4 00 *SECLVL)
LOGCLPGM(*YES)

```

```

SBMJOB CMD(RSTLIB SAVLIB(Y1SYVJPN) DEV(*SAVF)
SAVF(TEMP2E/Y1SYVJPN)
RSTLIB(Z1SY)) JOB(Y1SYVJPN) JOBQ(QBATCH) LOG(4 00 *SECLVL)
LOGCLPGM(*YES)

```

2. ジョブ ログを検証して、すべてのオブジェクトが正常に復元されたことを確認します。そして、次のコマンドを実行してジョブ ログを保存します。

```
DSPJOBLOG OUTPUT(*PRINT)
```

結果のスプール ファイル **QPJOBLOG** を保持しておいてください。エラーが発生した場合、**CA** テクニカル サポートが問題を解決するために、ジョブ ログが役に立つことがあります。

3. PC の DVD ドライブからインストール DVD を取り出します。

ソフトウェアの構成

CA 2E 製品を起動する前に、開発環境にあわせて構成してください。

1. サイン オンしていない場合は、**QSECOFR** または同等のユーザーで **IBM i** サーバーにサイン オンします。
2. ログイン レベルを次のように設定します。

```
CHGJOB LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

注: この後に続く手順では、置き換えた製品ライブラリーの名前を使用してください。また今回インストールしていないライブラリーに関する手順は無視してください。この例では、各ライブラリーの名前の頭文字に「**Z**」を使用しています。

国別言語ライブラリーの構成

国別言語サポート用のパラメーターを設定する場合には、次の手順を行います。

1. 次の省略値の国別言語を日本語以外にしたい場合には、製品の国別言語の省略値を再設定してください。

```
CHGDTAARA DTAARA(Z1SY/YLNSYA) VALUE(国別言語コード)
```

この値は ***JPN** で出荷されています。

```
CHGDTAARA DTAARA(Z2SY/YPRDLNGSYA) VALUE(国別言語コード)
```

この値は ***JPN** で出荷されています。

国別言語コードは、付録のワークシート「導入ワークシート」に載っています。データ域の値は、アスタリスク (*****) で始まる国別言語ライブラリー コードです。

ライブラリー名の再設定

1. 内部ヌル モデル ライブラリー名のデータ域を次のように再設定します。

```
CHGDTAARA DTAARA(Z2SY/YNLLMDLRFA) VALUE(Z2SYMDL)
```

```
CHGDTAARA DTAARA(Z2SYMDL/YMDLLIBRFA) VALUE(Z2SYMDL)
```

2. 国別言語ライブラリー名のデータ域を再設定するため、次のいずれかを実行します。
 - Y2SYVJPN を Z2SYVJPN に復元した場合は、次のコマンドを実行します。

```
CHGDTAARA DTAARA(Z2SY/YLNGJPNSYA) VALUE(Z2SYVJPN)
```

- Y2SYVJPN を Z2SY に復元した場合は、次のコマンドを実行します。

```
CHGDTAARA DTAARA(Z2SY/YLNGJPNSYA) VALUE(Z2SY)
```

3. 追加の国別言語がある場合は、次のコマンドを実行します。

```
CHGDTAARA DTAARA(Z2SY/YLNGXXXSYA) VALUE(CA 2E xxx 言語ライブラリー)
```

「xxx」は、付録のワークシート「導入ワークシート」に記載されている国別言語ライブラリー コードです。

現行ライブラリー リストへの追加

1. コマンド EDTLIBL を使用してデータ オブジェクト ライブラリーと CA 2E 製品ライブラリーを現行ライブラリー リストに追加します。

注: QTEMP はライブラリー リストの先頭でなければなりません。

- QTEMP
- Z1SYVxxx
- Z1SY
- Z2SY
- QGPL

「xxx」は、付録のワークシート「導入ワークシート」に載っている国別言語ライブラリー コードです。国別言語ライブラリーを使用する場合は、基本製品ライブラリーを国別言語ライブラリーの下に置いてください。

国別言語ライブラリーをマージする場合、例えば、Y1SYVJPN を Z1SY に復元し、Y2SYVJPN を Z2SY に復元した場合は、次のようなライブラリー リストになります。

- QTEMP
- Z1SY
- Z2SY
- QGPL

- オブジェクトロック処理コマンド (WRKOBJLCK) を実行して、CA 2E 認可ライブラリーが使用されていないことを確認します。

```
WRKOBJLCK OBJ(QSYS/YLUSLIB) OBJTYPE(*LIB)
```

```
WRKOBJLCK OBJ(YLUSLIB/YLICREGP) OBJTYPE(*FILE) MBR(*ALL)
```

- YLUSLIB のロックを解放します。(この作業は、次節のコマンド YCRTLUSLIB を発行するまでに行っておく必要があります)。

製品の認可

次の手順に従って、製品の認可をします。

- 既に存在している場合、YLUSLIBSAV ライブラリーを削除します。

```
DLTLIB LIB(YLUSLIBSAV)
```

- 現行の YLUSLIB のバックアップ コピーを作成します。

```
CPYLIB FROMLIB(YLUSLIB) TOLIB(YLUSLIBSAV)
```

- 製品 DVD からライブラリー YLUSLIB0 が復元してあることを、次のコマンドを実行して確認します。

```
WRKLIB YLUSLIB0
```

- YCRTLUSLIB コマンドを実行して、既存の YLUSLIB ライブラリーを更新します。
- F4 キーを入力して、YGRTLICAUT コマンドのプロンプトを表示し、CA ライセンスデスク、または、取り扱い代理店経由で入手した機密コードをキー入力できるようにします。各フィールドに 4 桁の 16 進数値を入力後、実行キーを押します。サーバー上の製品が認可されます。
- 製品が正しく認可されているかどうか、製品ライセンス表示コマンド YDSPLICPRD を実行して確認します。このコマンドを実行すると、認可されている製品、リリースレベル、満了日、同時実行可能な対話型ジョブの許容最大数のリストが表示されます。
- チェック リストに表示された満了日を書き留めてください。

注: 間違った認可コードを入力してしまった場合は、再入力してください。製品を使用しようとした時に、エラー メッセージが表示された場合は、テクニカル サポートにお問い合わせください。

データ オブジェクトを作成

1. CA 2E TOOLKIT データ オブジェクトを作成します。

```
YCRTY1DTA LIB(Z1SY)           または
YCRTY1DTA LIB(新しいデータ オブジェクト ライブラリー)
```

このデータ オブジェクトは、TOOLKIT 基本製品ライブラリー内、または CA 2E 以外の別のユーザー ライブラリー内のどちらかに置くことができます。

注: QGPL ライブラリーに配置しないでください。

2. 新しい製品でライブラリー リストや拡張ユーザー プロファイルのような TOOLKIT データ オブジェクトの複製を使用したい場合は、次のコマンドを入力します。

```
CRTLIB LIB(TEMPLIB)
YMOVY1DTA FROMLIB(新しいデータ オブジェクト ライブラリー) TOLIB(TEMPLIB)
YBLDOBJLST OBJ(TEMPLIB/*ALL)
YCHKLSTE CHKLIB(旧データ オブジェクト ライブラリー)
YCRTDUPOBJ OBJ(*O) FROMLIB(旧データ オブジェクト ライブラリー) OBJTYPE(*ALL)
          TOLIB(TEMPLIB) DATA(*YES) CRTOPT(*ALL)
YMOVY1DTA FROMLIB(TEMPLIB) TOLIB(新しいデータ オブジェクト ライブラリー)
YAPYY1DCHG Y1DLIB(新しいデータ オブジェクト ライブラリー) Y1DTYPE(*ALL)
DLTLIB LIB(TEMPLIB)
```

注: これにより、TOOLKIT データ オブジェクトのセットが 2 つになります。1 つが運用環境用、もう 1 つが並行環境用です。両方のデータ オブジェクトのセットを個別に保守する必要があります。

3. EDTLIBL コマンドを使用して、データ オブジェクト ライブラリーと CA 2E 製品ライブラリーを現行ライブラリー リストに追加します。

- QTEMP
- Z1SYVxxx
- Z1SY
- Z2SYRPG
- Z2SYCBL
- Z2SYVxxx
- Z2SY
- QGPL

「xxx」は、付録のワークシート「導入ワークシート」に載っている国別言語ライブラリーコードです。国別言語ライブラリーを使用する場合は、基本製品ライブラリーを国別言語ライブラリーの下に置いてください。

国別言語ライブラリーをマージする場合、例えば、Y1SYVJPN を Z1SY に復元し、Y2SYVJPN を Z2SY に復元した場合は、次のようなライブラリーリストになります。

- QTEMP
- Z1SY
- Z2SYRPG
- Z2SYCBL
- Z2SY
- QGPL

YSYS ライブラリー リストの変更

YSYS ライブラリー リスト内の製品ライブラリー名を、置き換えた製品ライブラリーの名前に変更します。

YEDTLIBLST LIBLST (Z1SY/YSYS) または

YEDTLIBLST LIBLST (新しいデータ オブジェクト ライブラリー/YSYS)

TOOLKIT 製品の認可

1. 次のコマンドを実行して、TOOLKIT のユーザー プロファイルとパスワードの拡張機能を認可します。

YSETY1AUT

このコマンドは、TOOLKIT のユーザー プロファイルとパスワード検証機能を有効にします。

2. 次のコマンドを実行して、ジョブ ログ ファイルを保存します。

DSPJOBLOG OUTPUT(*PRINT)

結果のスパール ファイル QPJOBLOG を保持しておいてください。エラーが発生した場合、CA テクニカル サポートが問題を解決するために、ジョブ ログが役に立つことがあります。

3. YWRKLIBLST コマンドおよびオプション 2 を使用して、インストール済みの PTF ライブラリーを対話型およびバッチ ジョブ定義のライブラリー リストから削除します。

新しいリリースを使用する前に、CA 2E モデルとジョブ記述のライブラリー リストを変更しなければなりません。

4. 並行導入で使用するアップグレードしたい既存の CA 2E 設計モデルをコピーします。本章の「既存 CA 2E 設計モデルのアップグレード」節の手順に進んでください。

経路指定項目の追加

この手順は、現在 CA 2E ジョブに使用しているサブシステムに、2 つめの経路指定項目を追加する場合に行います。

注: コンパイル プリプロセッサ プログラム (YBRTPRC) の CA 2E ジョブが投入されるサブシステムに、2 つの経路指定項目を設定しなければなりません。例えば、CA 2E 製品 ライブラリー名を Z1SY、Z2SY とした場合、次の作業を行います。

1. サブシステムに次の経路指定項目を追加します。

順序番号	プログラム	ライブラリー	比較値	開始桁
1112	YBRTPRC	Z1SY	ZCRTOVR	1

これで、サブシステムはプログラム YBRTPRC に対して次の 2 つの経路指定項目を持つこととなります。

順序番号	プログラム	ライブラリー	比較値	開始桁
1111	YBRTPRC	Y1SY	YCRTOVR	1
1112	YBRTPRC	Z1SY	ZCRTOVR	1

注: この経路指定項目は、選択したサブシステム内のシステムで提供される *ANY 経路指定項目よりも小さい値になるようにしてください。

2. 製品の並行バージョンによって使用されるように、すべてのモデルに対して経路指定データ ZCRTOVR を含むよう、各モデルのジョブ記述経路指定データを変更します。

モデルのジョブ記述名を確認するには、次の作業を行います。

- a. ライブラリー リストにモデル ライブラリーを追加します。

ADDLIBLE モデル ライブラリー名

- b. コマンド ラインから次のコマンドを入力します。

YDSPMDLVAL

- 「表示：環境値」 オプションを選択します。
- 「モデル ライブラリー」 見出しの「ジョブ記述」の名前を控えておきます。

3. CHGJOB コマンドを使用して、モデル ジョブ記述経路指定データを変更します。

CHGJOB JOB(ジョブ記述) RTGDTA(ZCRTOVR)

CA 2E の作業環境管理についての詳細は、『アプリケーションの生成と実装』マニュアルを参照してください。

2E システム値の見直し

CA 2E システム値を確認してください (次の表を参照)。必要な場合、YCHGMDLVAL コマンドを使用して、これらの製品の省略値を変更します。

「システム値」は、CA 2E モデルの作成時に使用される省略値です。YACTSYM と YDATFMT を除くすべてのシステム値は、各ユーザー モデルで上書きすることができます。システム値と YCHGMDLVAL の詳細については、CA 2E『コマンドリファレンス』を参照してください。

システム値	省略値	説明
YACTSYM	.	アクション ダイアグラム構造に使用される記号
YDATFMT	*MDY	作成されるアプリケーションの日付形式
YSYSCHG	*NONE	ライブラリー変更管理の省略値
YSYSDBF	*DDS	データ定義言語の省略値
YSYSHLL	*RPGIV	HLL ジェネレーターの省略値
YSYSNPH	*UIM	NPT ヘルプ テキストの省略時言語
YSYSPMT	*OFF	デバイス リテラルの省略時生成モード
YSYSSAA	*CUAENTRY	SAA フォーマットの省略値

既存 CA 2E 設計モデルのアップグレード

CA 2E の並行導入後に、変換処理を実行して設計モデルを更新する必要があります。設計モデルのアップグレードは、次の手順で行います。

- 適切な権限でサイン オン
- ライブラリー リストを変更
- アップグレード ユーティリティを実行

適切な権限でサイン オン

CA 2E の設計モデルをアップグレードするには、次の手順を行います。

1. サイン オンしていない場合は、QSECOFR または同等のユーザーで IBM i サーバーにサイン オンします。
2. 既存モデルのバック アップを取っておきます。

注: バックアップを取るときは、SAVLIB のパラメーター「アクセス・パス保管」を *YES にしてください。

ライブラリー リストの変更

1. ヌル モデル データ域に、並行導入した CA 2E のヌル モデル ライブラリー (Z2SYMDL) の名前が入っていることを確認します。

DSPDTAARA DTAARA(Z2SY/YNLLMDLRFA)

重要! このデータ域が、ユーザーが修正したヌル モデルを参照している場合は、深刻なモデルの破損が起こる可能性があるため、アップグレードバージョンで提供されるヌル モデルを再参照させなければなりません。

CHGDTAARA DTAARA(Z2SY/YNLLMDLRFA) VALUE(Z2SYMDL)

2. インストールした CA 2E 製品、国別言語、高水準言語ライブラリーをライブラリー リストに追加します。

TOOLKIT 製品が現行ライブラリー リストに存在する場合は、TOOLKIT のライブラリー リストの変更コマンド (YCHGLIBL または R) を使用して、現行ライブラリー リストをインストール過程で構築された YSYS ライブラリー リストに変更できます。

ADDLIBLE LIB(Z1SYVJPN) POSITION(*LAST)

ADDLIBLE LIB(Z1SY) POSITION(*LAST)

ADDLIBLE LIB(TOOLKIT データ オブジェクト ライブラリー) POSITION(*LAST)

YCHGLIBL LIBLST(YSYS)

通常、次のライブラリーが CA 2E 製品の実行に必要です。YSYS ライブラリー リストには、すでにこれらのライブラリーが含まれています。

- QTEMP
- Z1SYVxxx
- Z1SY
- Z2SYRPG
- Z2SYCBL
- Z2SYVxxx
- Z2SY
- QGPL

「xxx」は、付録のワークシート「導入ワークシート」に載っている国別言語ライブラリーコードです。国別言語ライブラリーを使用する場合は、基本製品ライブラリーを国別言語ライブラリーの下に置いてください。

TOOLKIT データ オブジェクトが Z1SY にない場合は、TOOLKIT データ ライブラリーを Z1SY の下に置いてください。

注: ジェネレーター ライブラリーは、インストールされたもののみを追加します。(Y2SYRPG、Y2SYCBL のどちらか、または両方)

アップグレード ユーティリティの実行

1. ライブラリー リストからすべてのモデルを除去します。
2. 各モデルに対して別々のバッチ ジョブを使用し、モデルをアップグレードします。バッチ ジョブは、単一スレッドのジョブ待ち行列で 1 つずつ実行すべきです。

```
SBMJOB CMD(YAPYMDLCHG MDLLIB(モデル ライブラリー名)) INLLIBL(*CURRENT)
LOG(4 00 *SECLVL) LOGCLPGM(*YES)
```

3. バッチのジョブ ログをチェックし、各モデルが正常にアップグレードされたことを確認します。コマンドは、終了コード「0」で完了している必要があります。終了コードが「0」でない場合は、テクニカル サポートにお問い合わせください。
4. アプリケーション オブジェクト複製コマンド (YDUPAPPOBJ) を製品ライブラリー以外のアプリケーション オブジェクトを含むライブラリーに対して実行します。

次のコマンドを実行すると、CA 2E アプリケーション オブジェクトが、どのライブラリーに含まれているのかを見つけることができます。

```
WRKOBJ OBJ(*ALLUSR/YGO) OBJTYPE(*CMD)
```

警告! YDUPAPPOBJ は、Y1SY などの製品ライブラリーに対しては、実行しないでください。

YDUPAPPOBJ コマンドの詳細は、CA 2E『コマンド リファレンス ガイド』および『アプリケーションの生成と実装』を参照してください。

注: コピーしたモデルを使用する前に、必ずモデルおよびジョブ記述ライブラリーを更新してください。

製品ライブラリー名の変更

既存の CA 2E 製品と並行導入した場合、後で旧バージョンの製品を削除し、新バージョンを旧バージョンの製品ライブラリー名に変更したい場合があります。

注: 製品ライブラリー名を変更する際は、現行ライブラリー リストに CA 2E ライブラリーを持つ活動中のユーザーがいないようにしてください。

TOOLKIT 製品ライブラリー名の変更

別の名前でインストールされた TOOLKIT 製品ライブラリー名を Y1SY に変更するには、TOOLKIT のライブラリー名の変更コマンド (YRNMLIB) を使用することをお奨めします。このコマンドは、名前を変更すると同時にそのライブラリーを参照するすべてのライブラリー リストを更新します。次に例を示します。

```
YRNMLIB FROMLIB(Z1SY) TOLIB(Y1SY)
```

TOOLKIT の製品ライブラリー名を変更後、他のライブラリー名を変更する前に、一旦サイン オフし、再度サイン オンし直してください。

CA 2E 製品ライブラリー名の変更

別の名前でインストールされた CA 2E 製品ライブラリー名を Y2SY に変更するには、TOOLKIT のライブラリー名の変更コマンド (YRNMLIB) を使用することをお奨めします。このコマンドは、名前を変更すると同時にそのライブラリーを参照するすべてのライブラリー リストを更新します。次に例を示します。

```
YRNMLIB FROMLIB(Z2SY) TOLIB(Y2SY)
```

CA 2E スル モデル ライブラリー名の変更

CA 2E 製品ライブラリーには、YNLLMDLRFA という名前のデータ域が含まれています。このデータ域に、関連するスル モデルを指定します。スル モデルは、新しいモデルを作成したり、既存モデルをクリアまたはアップグレード (YCRTMDLLIB、YCLRMDL、YAPYMDLCHG コマンドを実行) する際に参照されます。このスル モデル名を変更する場合、データ域の更新も必要になります。次に例を示します。

```
CHGDTAARA DTAARA(Y2SY/YNLLMDLRFA) VALUE('Y2SYMDL')
```

```
YRNMDL MDLLIB(Z2SYMDL) NEWMDLLIB(Y2SYMDL) LIBLST(*NONE)  
NEWLIBLST(*SAME) UPDLIBLST(*NONE) JOBD(*NONE)
```

CA 2E 国別言語ライブラリー名の変更

CA 2E 製品ライブラリーには、各国別言語ライブラリーごとに、その国別言語ライブラリー名を指定するデータ域 `YLANGxxxSYA` が含まれます。「xxx」は 3 文字の国別言語コードです。(詳細は、本章の前節「国別言語ライブラリーの構成」を参照してください)。国別言語ライブラリー名を変更する場合、データ域の更新も必要になります。`TOOLKIT` のライブラリー名の変更コマンド (`YRNMLIB`) を使用することをお奨めします。このコマンドは、名前を変更すると同時にそのライブラリーを参照するすべてのライブラリー リストを更新します。次に例を示します。

```
YRNMLIB FROMLIB(Z2SYVJPN) TOLIB(Y2SYVJPN)

CHGDTAARA DTAARA(Y2SY/YLANGJPNSYA) VALUE('Y2SYVJPN')
```

ユーザー モデル ライブラリー名の変更

ユーザー モデル ライブラリー名を変更する場合は、CA 2E のモデル名の変更コマンド (`YRNMDL`) を使用することをお奨めします。このコマンドは、そのライブラリーを参照するすべてのライブラリー リスト、および `YMDLLIB` モデル ライブラリー (`YMDLLIBRFA`) データ域を自動更新します。

次に例を示します。

```
YRNMDL MDLLIB(Z2MDL) NEWMDLLIB(Y2MDL)
```

注: モデルおよび生成ライブラリー名を変更する際、ジャーナルは活動できません。ライブラリー名を変更する前に、ライブラリーからジャーナル レシーバーを削除してください。

付録 A: TOOLKIT データ オブジェクト

CA 2E TOOLKIT のいくつかのコマンドは、ライブラリー リスト、ユーザー プロファイル 拡張属性、設計省略値情報のようなユーザー データを保管するために、データベース ファイルまたはデータ域を使用します。これらのオブジェクトは、CA 2E TOOLKIT データ オブジェクト ライブラリーに保管されています。

本節の題目

[TOOLKIT データ オブジェクト \(53 ページ参照\)](#)

[ユーザー作成設計オブジェクト \(54 ページ参照\)](#)

TOOLKIT データ オブジェクト

CA 2E TOOLKIT 製品の新しいリリースに対して、製品データ オブジェクトの作成 (YCRTY1DTA)、製品データ オブジェクトの移動 (YMOVY1DTA)、TOOLKIT データ変更の適用 (YAPYY1DCHG) コマンドを使用し、データ オブジェクトのリストを処理します。

オブジェクト名	説明
YLIBLST	ライブラリー リスト ファイル
YPWDVAL	禁止パスワード ファイル
YUSRPRF	ユーザー プロファイル ファイル
YDLCLMA	英文字 *GE 制限の場合に SDU が小文字を考慮
YDRPDFA	帳票設計ユーティリティの省略値
YDSCDCA	YDOCSCR 省略値
YDSCDFA	YCHGDSNDFT 設計省略値
YMHPFLA	YDSPMNU 省略値ヘルプ テキスト ファイル
YMHPIXA	YDSPHLP (*UIM) モードの UIM ヘルプ インデックス
YMHPLBA	YDSPMNU 省略値 ヘルプ テキスト ライブラリー
YMHPOPA	YDSPHLP USROPT パラメーターの省略値
YMHPYKA	YDSPHLP 省略値キー ヘルプ ラベル
YMHPYWA	YDSPHLP ウィンドウ省略値サイズ命令
YPBXCHA	YCVTPRT - 囲み文字
YPEXCHA	YEXCxxxLST @ の代替文字
YPLGOQA	YDSPABR ジョブ ログ出力待ちの行列名

オブジェクト名	説明
YXCOTXA	会社名テキスト
YWWDBDA	ウィンドウ境界の省略値
YYPWCKA	YCHKPWD 制御値
YYSYTXA	ソフトウェア システム名
YCVTOPTP	TCVTSPLF 変換オプション
YSPLRTRP	スプール経路制御ファイル
YBRTPXA	YCRTOVR – コンパイル プリプロセッサ 省略値 終了プログラム
YDBFCCS	YCVTSPLF – データベース・コードの文字セット識別子
YDMNAUDP	メニュー検査ファイル
YERRDFNP	エラー定義ファイル (UK: errcde/errprc)
YMSGPFXP	YAPPOBJ メッセージの接頭辞
YPDFSKL	YCVTSPLF – PDF 構造
YSTMFCD	YCVTSPLF – ストリーム ファイルのコード ページ
YSTRCONP	文字列定数 (UK: strid)

ユーザー作成設計オブジェクト

ユーザーが作成した設計オブジェクトを YAPYY1DCHG コマンドで処理することもできます。

オブジェクト名	説明
YDSNMNU	メニュー設計ファイル
YDSNPNL	パネル設計ファイル
YDSNPNL1	パネル設計ファイル
YDSNPNLA	パネル設計ファイル
YDSNPNLA0	パネル設計ファイル
YDSNPNLA1	パネル設計ファイル
YDSNPNLA2	パネル設計ファイル
YDSNPNL2	パネル設計ファイル
YDSNRPTA	帳票設計ファイル

オブジェクト名	説明
YDSNRPTB	帳票設計ファイル
YDSNRPTC	帳票設計ファイル
YDSNRPT0	帳票設計ファイル
YDSNRPT1	帳票設計ファイル

付録 B: 権限要件

本付録では、CA 2E 製品を実行するために必要な権限について説明します。

本節の題目

[権限テーブル](#) (57 ページ参照)

権限テーブル

ライブラリー	オブジェクト	オブジェクト タイプ	必要な権限
QSYS	ADDLFM	*CMD	*USE
QSYS	ADDPFM	*CMD	*USE
QSYS	CHGDTAARA	*CMD	*USE
QSYS	CHGJOB	*CMD	*USE
QSYS	CHGJOBBD	*CMD	*USE
QSYS	CHGLF	*CMD	*USE
QSYS	CHGMSGD	*CMD	*USE
QSYS	CHGOBJOWN	*CMD	*USE
QSYS	CHGLF	*CMD	*USE
QSYS	CPYF	*CMD	*USE
QSYS	CRTCMD	*CMD	*USE
QSYS	CRTDSPF	*CMD	*USE
QSYS	CRTDTADCT	*CMD	*USE
QSYS	CRTDTAARA	*CMD	*USE
QSYS	CRTDUPOBJ	*CMD	*USE
QSYS	CRTJOBBD	*CMD	*USE
QSYS	CRTJRN	*CMD	*USE
QSYS	CRTJRNRV	*CMD	*USE
QSYS	CRTLIB	*CMD	*USE
QSYS	CRTLFL	*CMD	*USE

ライブラリー	オブジェクト	オブジェクト タイプ	必要な権限
QSYS	CRTMSGF	*CMD	*USE
QSYS	CRTMSGQ	*CMD	*USE
QSYS	CRTPF	*CMD	*USE
QSYS	CRTPRTF	*CMD	*USE
QSYS	CRTSRCPF	*CMD	*USE
QSYS	DLTDTADCT	*CMD	*USE
QSYS	DLTF	*CMD	*USE
QSYS	DLTLIB	*CMD	*USE
QSYS	DLTPGM	*CMD	*USE
QSYS	DMPOBJ	*CMD	*USE
QSYS	RGZPFM	*CMD	*USE
QSYS	RMVM	*CMD	*USE
QSYS	STRDBG	*CMD	*USE
QSYS	QGPL	*LIB	*CHANGE
QSYS	CRTPNLGRP	*CMD	*USE
QRPG	CRTRPGPGM	*CMD	*USE
QSYS	CRTRPGPGM	*CMD	*USE
QSYS	CRTCBLPGM	*CMD	*USE
QSQL	CRTSQLRPG	*CMD	*USE
QSYS	CRTSQLRPG	*CMD	*USE
QSQL	CRTSQLCBL	*CMD	*USE
QSYS	CRTSQLCBL	*CMD	*USE
QSYS	CRTBNDRPG	*CMD	*USE
QSYS	CRTRPGMOD	*CMD	*USE
QSYS	CRTBNDDIR	*CMD	*USE

付録 C: トラブルシューティング

インストール処理過程でエラーが発生した場合、インストールを実行しているジョブに 1 つ以上のメッセージが送信されます。

エラーが発生した場合、コマンドを実行したジョブのジョブログを確認してください。ジョブをバッチに投入した場合は、スプールのジョブログを表示してください。ジョブを対話式に実行している場合は、*LIST オプションを指定してサインオフするか、F10 を押して詳細レベルのメッセージを画面上で確認、もしくは、次のコマンドを実行してください。

DSPJOBLOG OUTPUT(*PRINT)

このジョブログのスプールファイルを確認します。

本節の題目

[発生する可能性のある問題](#) (59 ページ参照)

発生する可能性のある問題

インストール処理過程で発生する可能性のあるエラーについて、想定される原因を次に示します。

■ 権限の不足

これは、既存製品を消去したり、ロード後のコマンドを実行するユーザープロファイルが、QSECOFR 権限を持っていないことを示唆します。

回復手順: 権限のあるプロファイルでサインオンし、再度インストール作業を実行します。

■ 媒体エラー

媒体エラーで復元に失敗した場合は、製品の提供元にご連絡ください。

付録 D: IBM i サーバーの DVD ドライブからの導入

CA 2E 製品を IBM i サーバーの DVD ドライブからインストールする場合は、ストリームファイルからのコピー コマンド (CPYFRMSTMF) を実行し、インストール DVD から IBM i サーバーに SAVF ファイルを転送できます。

本節の題目

[CPYFRMSTMF コマンドの使用](#) (61 ページ参照)

CPYFRMSTMF コマンドの使用

次の手順は、「ファイルを IBM i サーバーにコピー」に代わる手順です。付録「導入ワークシート」を使用して、転送する必要がある SAVF ファイルを確定し、各ファイルに対して CPYFRMSTMF コマンドを実行します。

1. CPYFRMSTMF コマンドを入力し、F4 キーを押します。次の例のように表示されます。

```
FROM ストリーム・ファイル . . . . . > _____  
TO ファイル・メンバー・保管ファイル . . . > _____  
メンバー・オプション . . . . . > _____ *NONE, *ADD, *REPLACE
```

1. 下図のように値を入力します。

```
FROM ストリーム・ファイル . . . . . > 'QOPT/XXXXXXXX/Y1SY~1.SAV'  
TO ファイル・メンバー・保管ファイル . . . > '/QSYS.LIB/TEMP2E.LIB/Y1SY.FILE'  
メンバー・オプション . . . . . > *ADD *NONE, *ADD, *REPLACE
```

注: 「XXXXXXXX」は、DVD ボリューム ID です。

上記の例では、Y1SY.SAVF を TEMP2E ライブラリーに転送します。

1. 必要な各 SAVF ファイルに対してコマンドの実行を繰り返します。

ストリーム ファイル	SAVF ファイル
YLUSLI~1.SAV	YLUSLIB0.SAVF
Y1SY~1.SAV	Y1SY.SAVF
Y1SYVE~1.SAV	Y1SYVJPN.SAVF
Y2SY~1.SAV	Y2SY.SAVF
Y2SYVE~1.SAV	Y2SYVJPN.SAVF
Y2SYCB~1.SAV	Y2SYCBL.SAVF
Y2SYRP~1.SAV	Y2SYRPG.SAVF
Y2SYMD~1.SAV	Y2SYMDL.SAVF
Y2SYSR~1.SAV	Y2SYSRC.SAVF

付録 E: バージョン 7.0 より前のリリースからのアップグレード

本付録では、CA 2E スル モデルの変更点について説明します。バージョン 7.0 より前の既存の CA 2E モデルを (最新のリリースに) アップグレードする場合は、事前に変更点を詳しく確認してください。

本節の題目

[CA 2E スル モデル内の新規オブジェクト \(63 ページ参照\)](#)

[プログラム状況データ構造ファイルへの変更点 \(65 ページ参照\)](#)

CA 2E スル モデル内の新規オブジェクト

CA 2E 7.0 で、スル モデルに新しい内部システム定義フィールドと、次節で説明する新しいメッセージが追加されました。

新規の内部システム定義フィールド

CA 2E バージョン 7.0 で、いくつかの内部システム定義フィールドが作成されました。これらのフィールドは、(7.0 の『リリース サマリ』で詳細が説明されている) 追加機能で使用されます。すべての新しいフィールドは、既存の「*ジョブ日」フィールドのように、3 文字の内部 DDS 名とアスタリスク (*) で始まるテキスト名を持っています。

重要! 7.0 より前のバージョンの CA 2E 製品から最新リリースにアップグレードする前に、ユーザー定義フィールドが、本節内の表に示されている新しいフィールドの名前と重複していないことを必ず確認してください。

表に示すフィールドと同じテキスト名か、同じ DDS 名を持つフィールドがモデル内に作成されていた場合、そのフィールドの名前を変更する必要があります。また、必要な場合、そのフィールドを使用しているファンクションを最新リリースにアップグレードする前に、再生成および再コンパイルしてください。

テキスト名	DDS 名	説明
*ALLPARMS	ALL	単独フィールド
*相対ロード 番号	RRN	単独フィールド
*PGM STATUS	STS	*JOB DATA ファイルに追加
*PGM 前回*状況	PST	*JOB DATA ファイルに追加

テキスト名	DDS 名	説明
*PGM *ルーチン	RVN	*JOB DATA ファイルに追加
*PGM *PARMS	PRM	*JOB DATA ファイルに追加
*PGM 例外 MSGID	MSI	*JOB DATA ファイルに追加
*PGM プログラム・ライブラリー	PLB	*JOB DATA ファイルに追加
*PGM 例外データ	MSD	*JOB DATA ファイルに追加
*PGM エラー・ファイル	EFL	*JOB DATA ファイルに追加
*PGM 最終ファイル状況	EFS	*JOB DATA ファイルに追加

新規のメッセージ

インストールのアップグレード処理過程でモデルに追加される、4つの新しいメッセージがヌル モデルに含まれています。その新しいメッセージは、RPGIV ジェネレーターのコンパイル メッセージとして使用される実行メッセージ (EXCMSG) です。

それらの名前と同じメッセージを作成していないかどうか確認する必要があります。もし、存在している場合は、最新リリースにアップグレードする前に名前を変更する必要があります。新しいメッセージは、次の通りです。

メッセージ名	メッセージ ID	説明
*CRTBNDRPG	Y2U1022	CRTBNDRPG の省略値
*CRTSQLRPGI	Y2U1023	CRTSQLRPGI の省略値
*CRTRPGMOD	Y2U1024	CRTRPGMOD の省略値
*CRTCLMOD	Y2U1026	CRTCLMOD の省略値 (未使用)

プログラム状況データ構造ファイルへの変更点

プログラム状況データ構造ファイル Y2PGDSP と Y2PGDSPK が変更され、これらのファイル内のいくつかのフィールドの DDS 名に影響があります。ファイル構造には影響しません。

EXECUTE USER SOURCE (EXCUSRSRC)、EXECUTE USER PROGRAM

(EXCUSRPGM) ファンクション、または CA 2E モデル外で定義された外部ファンクションが存在し、変更されたファイルの古い DDS フィールド名のいずれかを使用している場合、フィールド名の変更を反映させるために、それらのファンクションのソースを変更する必要があります。変更されたフィールド名は次の通りです。

Y2PGDSP 古い名前	新しい名前	テキスト名	Y2PGDSPK 古い名前	新しい名前
##STCD	##STS	*STATUS	ZZSTCD	ZZSTS
##STCP	##PST	前回*状況	ZZSTCP	ZZPST
##RTVN	##RVN	*ルーチン	ZZRTVN	ZZRVN
##PMCT	##PRM	*PARMS	ZZPMCT	ZZPRM
##MSID	##MSI	例外 MSGID	ZZMSID	ZZMSI
##PGLB	##PLB	プログラム・ライブラリー	ZZPGLB	ZZPLB
##MSDA	##MSD	検索例外データ	ZZMSDA	ZZMSD
##ERFL	##EFL	エラー・ファイル	ZZERFL	ZZEFL
##ERST	##EFS	最終ファイル状況	ZZERST	ZZEFS

例えば、ZZMSDA を参照するユーザー ソース ファンクションが存在する場合、最新リリースにアップグレードする前に、ZZMSD を参照するようにユーザー ソースを変更し、再生成および再コンパイルする必要があります。

付録 F: 導入ワークシート

次のワークシートに、インストールする各 CA 2E 製品に対して採用するライブラリー名を記入してください。インストールする予定のすべての機能について記入する必要があります。

本節の題目

[製品ライブラリー \(67 ページ参照\)](#)

[国別言語サポート ライブラリー \(68 ページ参照\)](#)

製品ライブラリー

この表は、製品のインストールに必要な製品ライブラリーのリストです。

製品 ライブラリー	出荷時の ライブラリー名	マージ可能 ライブラリー	採用する ライブラリー名	ライブラリーの 消去完了?	ライブラリーの 復元完了?
CA 2E 認可 ライブラリー	YLUSLIB0	名前の変更は 不可	YLUSLIB0		
TOOLKIT 基本ライブラリー	Y1SY	なし			
CA 2E 基本ライブラリー	Y2SY	なし			
CA 2E ヌル モデル ライブラリー	Y2SYMDL	なし			
CA 2E ソース ライブラリー	Y2SYSRC	なし			
RPG/RPGIV ジェネレーター ラ イブラリー	Y2SYRPG	Y2SY			
COBOL ジェネレーター ラ イブラリー	Y2SYCBL	Y2SY			

マージ可能ライブラリー

マージ可能ライブラリーには、複数の出荷ライブラリーのオブジェクトを入れることができます。次の点に注意してください。

- マージ可能ライブラリーの欄が「なし」の場合、そのライブラリーは別のライブラリーに復元できません。
- マージ可能ライブラリーの欄が **Y1SY** の場合、その出荷ライブラリーは **Y1SY** に復元できます。
- マージ可能ライブラリーの欄が **Y2SY** の場合、その出荷ライブラリーは **Y2SY** に復元できます。

すべての高水準言語 (HLL) ジェネレーター ライブラリーは、マージが可能です。表中の「マージ可能ライブラリー」欄は、HLL ジェネレーター ライブラリーをマージできる対象の製品ライブラリーを示しています。少なくとも **1** つの高水準言語 (HLL) ジェネレーターをインストールする必要があります。

アップグレード導入で、どの製品ライブラリーがマージされているのか不明な場合は、次のコマンドを実行すると現在の構成を確認できます。

```
WRKOBJ OBJ(*ALL/YFIXRPGRFA) OBJTYPE(*DTAARA)
```

Y2SY に YFIXRPGRFA が入っている場合、Y2SYRPG が Y2SY にマージされています。Y2SYRPG に入っている場合、そのライブラリーはマージされていません。

```
WRKOBJ OBJ(*ALL/YFIXCBLRFA) OBJTYPE(*DTAARA)
```

Y2SY に YFIXCBLRFA が入っている場合、Y2SYCBL が Y2SY にマージされています。Y2SYCBL に入っている場合、そのライブラリーはマージされていません。

国別言語サポート ライブラリー

TOOLKIT 開発用国別言語

TOOLKIT 開発用国別言語ライブラリーを少なくとも **1** つインストールする必要があります。確かでない場合は、お手元の国別言語インストール DVD を確認してください。

英語以外の開発用の国別言語は、別の DVD に含まれており、特別に注文しない限り付属されていません。

国別言語ライブラリーについては、基本製品ライブラリーにマージできる言語ライブラリーは 1 つのみです。2 つめ以降の国別言語ライブラリーは、個別の外部ライブラリーにする必要があります。

開発用 国別言語	NLL コード	出荷時の ライブラリー名	マージ可能 ライブラリー	採用する ライブラリー名	ライブラリー の消去 完了?	ライブラリー の復元 完了?
TOOLKIT 英語	ENG	Y1SYVENG	Y1SY			
TOOLKIT フランス 多言語	FRN	Y1SYVFRNM	Y1SY			
TOOLKIT 日本語	JPN	Y1SYVJPN	Y1SY			

アップグレード導入で、どの TOOLKIT 開発用国別言語ライブラリーがマージされているのか不明な場合は、次のコマンドを実行すると現在の構成を確認できます。

```
WRKOBJ OBJ(*ALL/Y1LNSYA) OBJTYPE(*DTAARA)
```

Y1SY にデータ域 Y1LNSYA があり、値に *JPN が入っている場合、Y1SYVJPN が Y1SY にマージされています。データ域が Y1SYVJPN にある場合は、そのライブラリーは Y1SY にマージされていません。

注: 国別言語ライブラリー コード (NLL) は、各導入章の構成手順で使用される略称です。

2E 開発用国別言語

2E 開発用国別言語ライブラリーを少なくとも 1 つインストールする必要があります。確かでない場合は、お手元の国別言語インストール DVD を確認してください。

英語以外の開発用の国別言語は、別の DVD に含まれており、特別に注文しない限り付属されていません。

国別言語ライブラリーについては、基本製品ライブラリーにマージできる言語ライブラリーは 1 つのみです。2 つめ以降の国別言語ライブラリーは、個別の外部ライブラリーにする必要があります。

開発用 国別言語	NLL コード	出荷時の ライブラリー名	マージ可能 ライブラリー	採用する ライブラリー名	ライブラリー の消去 完了?	ライブラリー の復元 完了?
2E 英語	ENG	Y2SYVENG	Y2SY			
2E 日本語	JPN	Y2SYVJPN	Y2SY			

アップグレード導入で、どの 2E 開発用国別言語ライブラリーがマージされているのか不明な場合は、次のコマンドを実行すると現在の構成を確認できます。

WRKOBJ OBJ(*ALL/YMDLLNGSYA) OBJTYPE(*DTAARA)

Y2SY にデータ域 YMDLLNGSYA があり、値に *JPN が入っている場合、Y2SYVJPN が Y2SY にマージされています。YMDLLNGSYA が Y2SYVJPN に入っている場合、そのライブラリーはマージされていません。

TOOLKIT エンド ユーザー環境用国別言語

エンドユーザー環境用国別言語ライブラリーには、アプリケーションを他の言語で生成するために必要なオブジェクトが入っています。エンドユーザー環境用国別言語ライブラリーは、基本製品ライブラリーにマージできませんので、別ライブラリーにしてください。

注: 国別言語ライブラリー コード (NLL) は、各導入章の構成手順で使用される略称です。

エンド ユーザー 環境用国別言語	NLL コード	出荷時の ライブラリー名	マージ可能 ライブラリー	採用する ライブラリー名	ライブラリー の消去 完了?	ライブラリー の復元 完了?
TOOLKIT クロアチア語	HRZ	Y1SYVHRZ	なし			
TOOLKIT デンマーク語	DAN	Y1SYVDAN	なし			
TOOLKIT オランダ語	NDL	Y1SYVNDL	なし			
TOOLKIT フィンランド語	FIN	Y1SYVFIN	なし			
TOOLKIT フランス語	FRN	Y1SYVFRN	なし			
TOOLKIT フランス 多言語	FRN	Y1SYVFRNM	なし			
TOOLKIT ドイツ語	DTC	Y1SYVDTC	なし			
TOOLKIT ドイツ 多言語	DTC	Y1SYVDTCM	なし			
TOOLKIT イタリア語	ITA	Y1SYVITA	なし			

エンドユーザー環境用国別言語	NLL コード	出荷時の ライブラリー名	マージ可能 ライブラリー	採用する ライブラリー名	ライブラリー の消去 完了?	ライブラリー の復元 完了?
TOOLKIT ノルウェー語	NSK	Y1SYVNSK	なし			
TOOLKIT ポルトガル語	PTG	Y1SYVPTG	なし			
TOOLKIT スロベニア語	SLO	Y1SYVSLO	なし			
TOOLKIT スペイン語	ESP	Y1SYVESP	なし			
TOOLKIT スウェーデン語	SVK	Y1SYVSVK	なし			

2E エンドユーザー環境用国別言語

エンドユーザー環境用国別言語ライブラリーには、アプリケーションを他の言語で生成するために必要なオブジェクトが入っています。エンドユーザー環境用国別言語ライブラリーは、基本製品ライブラリーにマージできませんので、別ライブラリーにしてください。

注: 国別言語ライブラリー コード (NLL) は、各導入章の構成手順で使用される略称です。

エンドユーザー環境用国別言語	NLL コード	出荷時の ライブラリー名	マージ可能 ライブラリー	採用する ライブラリー名	ライブラリー の消去 完了?	ライブラリー の復元 完了?
2E クロアチア語	HRZ	Y2SYVHRZ	なし			
2E デンマーク語	DAN	Y2SYVDAN	なし			
2E オランダ語	NDL	Y2SYVNDL	なし			
2E フィンランド語	FIN	Y2SYVFIN	なし			
2E フランス語	FRN	Y2SYVFRN	なし			
2E フランス 多言語	FRN	Y2SYVFRNM	なし			

エンドユーザー 環境用国別言語	NLL コード	出荷時の ライブラリー名	マージ可能 ライブラリー	採用する ライブラリー名	ライブラリー の消去 完了?	ライブラリー の復元 完了?
2E ドイツ語	DTC	Y2SYVDTC	なし			
2E ドイツ 多言語	DTC	Y2SYVDTCM	なし			
2E イタリア語	ITA	Y2SYVITA	なし			
2E ノルウェー語	NSK	Y2SYVNSK	なし			
2E ポルトガル語	PTG	Y2SYVPTG	なし			
2E スロベニア語	SLO	Y2SYVSLO	なし			
2E スペイン語	ESP	Y2SYVESP	なし			
2E スウェーデン語	SVK	Y2SYVSVK	なし			